



Schedule 今月の開館スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
			1 ×	2 ×	3 ×	4 ×
5 ×	6 ×	7七夕 × 学内限定 夏の観望会 ★観望会中に 月は見えません	8 × 学内限定 夏の観望会 ★観望会中に 月は見えません	9 ×	10 ×	11 ×
12 ×	13 ×	14 ×	15 ×	16 ×	17 ×	18 常設展示 再オープン
19 オープンキャンパス 施設見学 10:00-15:30	20 海の日 ×	21 月の形	22 月の形	23 月の形	24 月の形	25 ×
26 ×	27 月の形	28 月の形	29 月の形	30 月の形	31 月の形	

施設見学 9:00～16:30
 土曜日は天体観望会実施日のみ 14:30～17:30

天体観望会 19:30～21:00
 (定員あり / 要予約)

休館日

月の形 (満月・新月・半月および
 観望会実施日)

事務室閉室日
 (問い合わせ等対応不可)

施設見学

1階展示フロアでは「望遠鏡 × 宇宙探査」、
 また、3階では荒木望遠鏡 (国内私立大学最
 大口径の反射式望遠鏡) の見学が可能です。
 (展示替えのため 7/1～17 は休館)

天体観望会

荒木望遠鏡や小型望遠鏡で天体を観察すること
 ができ、天文台専門スタッフが望遠鏡や天体
 について解説を行います。
 また、宇宙の3D映像上映会を開催します。
 (コンテンツは予告なく変更する場合があります)

よくある質問

観望会でよく聞かれる
 質問にお答えします★

① 荒木望遠鏡で天の川は見えるの？

望遠鏡は狭い範囲を拡大するため、たとえば天の川の中にある星を見る
 ことはできますが、天の川の形を望遠鏡で確認することはできません。
 天の川の形を見るには、京都市内の街明りに邪魔されないように、もう
 少し市街地から離れた場所へ行く必要があります。山や海などへ旅行に
 行かれた際には、ぜひ、天の川を探してみてください。

② セタの夜、織姫星と彦星は本当に近づくの？

残念ながら、織姫星 (こと座のベガ) と彦星 (わし座のアルタイル)
 がセタの夜に近づくことはありません。実際には織姫星と彦星との間
 は、この世で一番速い光でさえ14年半もかかるほど離れています。
 天の川をはさんで輝いている2つの星の配置から、中国でセタ伝説が
 生まれ、日本へ伝わってきました。

③ どうすれば流れ星を見ることができますか？

月や街の明かりにじゃまされないような空の暗いところ、また、空が
 見わたせるところに出かけてみてください。数時間に1～2個くらいの
 流れ星を見ることができるでしょう。『流星群』の時期をねらって夜
 空を見上げるのもオススメです。いつもより多めに流れ星を見ることが
 できます。

- ★ ペルセウス座流星群 (8月13日ごろ) 月が無く好条件!
- ★ ふたご座流星群 (12月14日ごろ) 月が早く沈み好条件!

夏の大三角

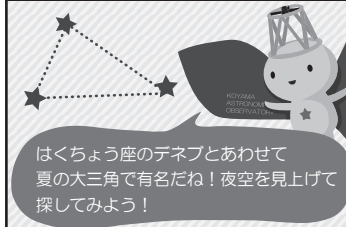
今年もセタの季節が
 やって来たね!!



1年に1度だけ、織姫と彦星は天の川を
 渡って会えるという言い伝えがあるけど



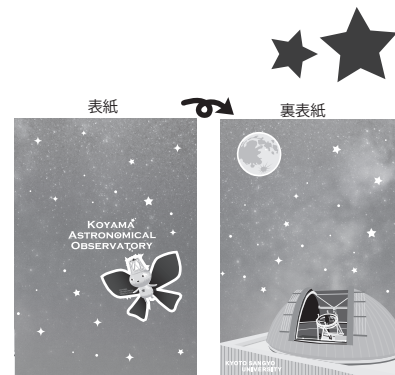
織姫星はこと座のベガ、
 彦星はわし座のアルタ
 イルのことなんだよ!



はくちょう座のデネブとあわせて
 夏の大三角で有名だね! 夜空を見上げて
 探してみよう!



天体観望会に参加し、荒木望遠鏡で星を見てスタンプを
 集めると、集めた数に応じて神山天文台オリジナルグ
 ッズがもらえます。
 スタンプは全 10 種類★天気の良い日は一気にスタンプ
 が集まることも…! 天体観望会に参加して、グッズをゲッ
 トしよう!



↑ほしみ〜るちゃん® 無地ノート

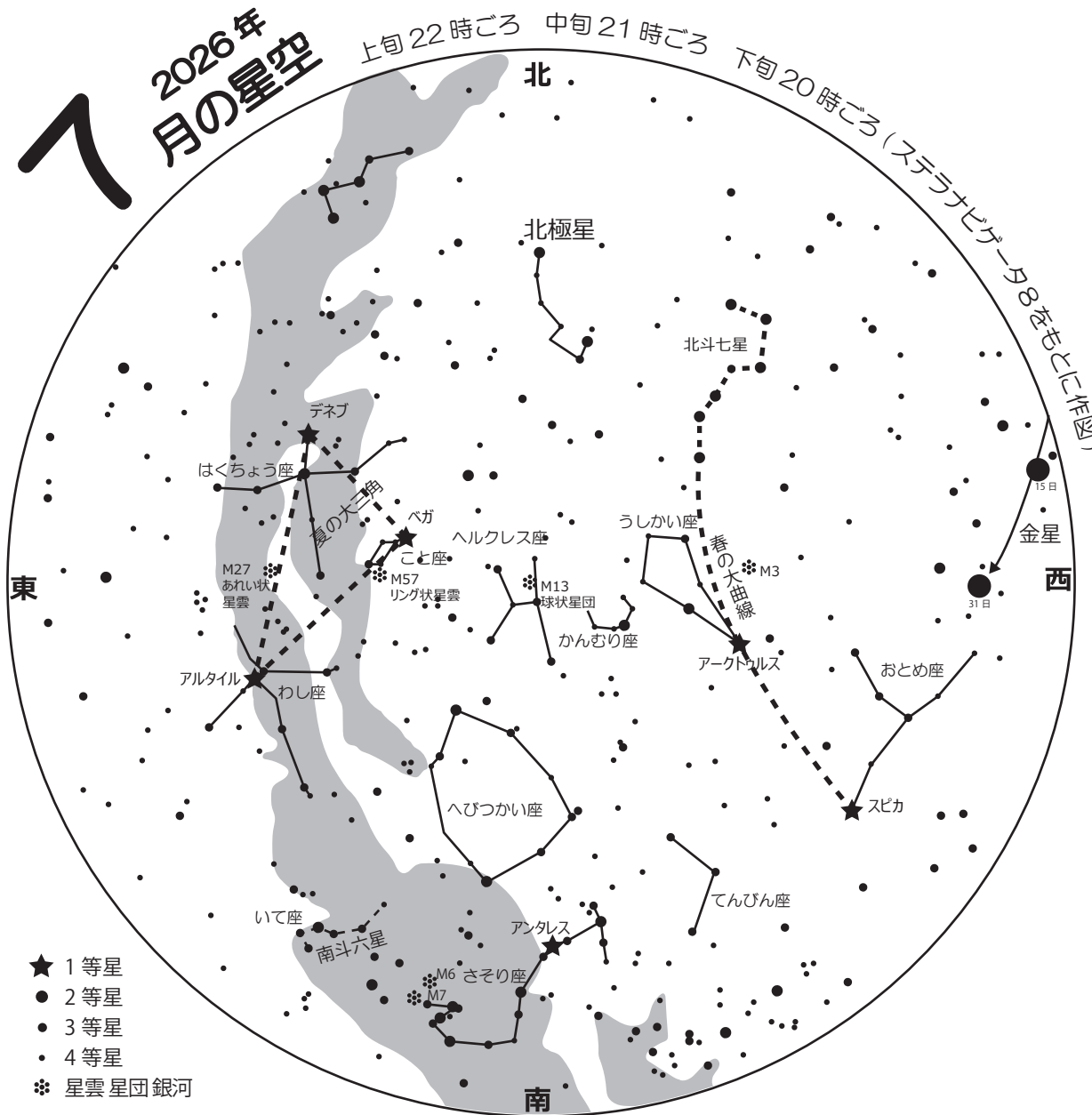
発行

京都産業大学 神山天文台
 〒603-8555 京都市北区上賀茂本山 ☎075-705-3001
 https://www.kyoto-su.ac.jp/observatory/

【公式 SNS】



2026年7月 見ごろの天体



7月7日 七夕

織姫、彦星の物語が有名な七夕は、中国の裁縫の上達を願う「乞巧奠（きこうでん）」と、日本の「着物を棚に供え、秋の豊作を祈り、穢れを払う行事」とが合わさった行事といわれています。今では裁縫だけでなく、書道や芸事など、いろいろな願い事をしますね。現在の暦では7月7日は梅雨明けが多いことが多く、織姫、彦星も遅い時間にならないと昇ってきません。月をもとにした暦、旧暦のほうが季節感が合います。今年の旧暦の伝統的七夕は8月19日です。

★金星 (きんせい) : Venus

地球より1つ内側を回るお隣の惑星で、西の空の低空でひときわ明るく輝いています。大きさも密度も地球と同じくらいですが、厚い二酸化炭素の大気や濃硫酸の雲が金星全体を覆っており、表面の温度は約460℃、気圧は地球の90倍にもなる過酷な環境です。自転周期はとてつゆりの243地球日ですが、自転速度の60倍もの風が吹き、4日間で金星を一周してしまう「スーパーローテーション」という大気の循環が起こっています。このような謎を解き明かそうと、京都産業大学の研究者たちが研究を進めています。

★夏の大三角 (なつのだいさんかく) : The summer triangle

はくちょう座のデネブ、わし座のアルタイル、こと座のベガの3つの明るい星を結んで描かれる大きな三角形は夏の大三角と呼ばれています。ベガとアルタイルは、七夕の伝説における「織姫」と「彦星」です。

★二重星 (にじゅうせい) : Double star

重星は、肉眼で見ると1つの星ですが、望遠鏡で見ると2つの星に見えます。夏に見られる代表的な重星には、はくちょう座のアルビレオ（金色と青色の2つの星が寄り添って見える）、さそり座のβ星（爽やかな青いペア）があります。こと座には、二重星がさらに2つずつの二重星となっている、ダブル・ダブル・スターと呼ばれる星もあります。

★球状星団 (きゅうじょうせいだん) : Globular cluster

球状星団は、数十万の恒星の集まりです。私達の銀河系の中には、約150個の球状星団があります。球状星団の中の星たちは非常に高齢で、100億歳以上の星もたくさんあります。夏には、ヘルクレス座のM13、りょうけん座のM3、へび座のM5などの球状星団が見られます。

★赤色巨星 (せきしょくきょせい) : Red giant

恒星は、一生の大部分は安定して輝く時期（「主系列星」と言います）が続きます。しかし、恒星の内部の水素を使い果たすと、恒星は自身の重力で縮み始め、その際に発生する熱によって外側のガスはさらに外へと膨張し、巨大な星になります。膨張すると表面の温度が低くなるため赤色に見えます。夏には、うしかい座のアルクトゥルス（直径は太陽の約20倍）やさそり座のアンタレス（直径は太陽の約600-800倍）が見られます。